

さくらほっと NEWS

vol.38
平成28年冬号



消化器・一般外科の皆さん

消化器領域における 腹腔鏡(鏡視下)手術への 取り組み ...2

名市大病院のチカラ vol.6 3
 化学療法の特任医
 「外来がん治療認定薬剤師」 4
 市民公開講座・セミナーのご案内
 ご寄附のお願い (さくら基金)

国の方針に基づき、地域医療連携を推進しています。

国の方針▶医療機関の機能分化

特定機能病院(名古屋市立大学病院)

入院や手術などの専門的な診療・検査を含む高度先進医療を担当

地域の医療機関(かかりつけ医)

風邪などの日常的な病気や症状が安定した慢性疾患などの患者さんに対する医療を担当

地域医療連携の推進

診断が確定し症状が安定した患者さんは地域の医療機関にご紹介しております。

※症状が悪化した場合などは、改めて名古屋市立大学病院へ紹介されます。



消化器領域における 腹腔鏡(鏡視下)手術への取り組み

昨年からマスコミなどで頻繁に取り上げられている「腹腔鏡手術」。さまざまな情報に触れることで、この手術に対し漠然とした不安を感じている方も多いのではないのでしょうか？今回は、この「腹腔鏡手術」の概要と当院における取り組みをご紹介します。

腹腔鏡手術とは？

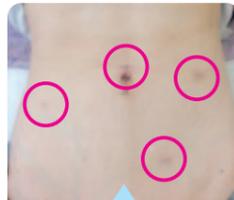


消化器・一般外科
竹山部長(教授)

腹腔鏡手術とは、内視鏡を体内(お腹)に入れて行う手術のことで、「鏡視下(きょうしか)手術」のうちの一つです。体のどの部分に内視鏡を入れるかによって名称は変わり、食道や肺などの胸周辺に対して行う場合は「胸腔鏡(きょうくうきょう)手術」といいます。



腹腔鏡手術の様子



腹腔鏡手術による傷痕
開腹・開胸に比べ
非常に小さくなります

腹腔鏡(鏡視下)手術の特徴～開腹・開胸手術との比較～

- 腹腔鏡(鏡視下)手術の特徴
- 手術による傷が小さい
- 入院期間が短い
- 担当医の高度な技術が必要
- 手術時間が長い

開腹・開胸手術と比較した場合、腹腔鏡(鏡視下)手術には左記のような特徴が挙げられます。手術による傷が小さく身体への負担が少ないため入院期間が短くなるというメリットがある一方で、モニターを見ながら行うため視野が限られており、医師は訓練と経験を積む必要があります。また、手術時間も長くなります。

当院の消化器・一般外科において実施している腹腔鏡(鏡視下)手術

| グループ | 領域責任者 | 主な対象疾患 | 特長 |
|-------|----------------------|--------------------|--|
| 上部消化管 | 石黒准教授 | 食道がん 胃がん | 手術の質を確保しながら少しずつ鏡視下手術の対象を広げており、早期胃がんに対してはほぼ全例実施しています。 |
| 肝・胆・膵 | 松尾准教授 | 肝腫瘍、膵腫瘍 胆石・胆のう炎 | 年間約90件の腹腔鏡下胆のう摘出術を実施しています。また、肝腫瘍や膵腫瘍に対しても安全が確保できれば積極的に実施しています。 |
| 下部消化管 | 高橋准教授 原講師 | 大腸がん 直腸がん | 大腸がん手術の大半を腹腔鏡下で行っており、中でも結腸・直腸がんに対しては年間約130件実施しています。 |
| 一般外科 | — | 虫垂炎 鼠径ヘルニア(脱腸) | 虫垂切除やヘルニアの修復術に対し、積極的に腹腔鏡下手術を実施しています。 |

患者さんの病状に応じた最適な治療を提供しています

当院では、豊富な経験と知識を持つ医師を中心に、患者さんにとって最適な治療を提供しています。腹腔鏡(鏡視下)手術のような最先端の治療法はもちろん積極的に取り入れています。また、むやみに活用するのではなく、既存の治療法を含めたそれぞれのメリット・デメリットを十分に比較・考慮し、患者さんに納得していただいたうえで病状に応じた最適な治療を行っています。

もしご自分やご家族等の診療内容にご不明な点がございましたら、お気軽に担当医へお尋ねください。

名市大病院のチカラ Vol. 6

形成外科

「見た目(外観)」と「働き(機能)」の両方を再建し、患者さんのQOL(生活の質)の向上に尽力



形成外科
鳥山部長

形成外科は平成27年3月に開設され、顔(耳やまぶたなど)や手足などの体表面に生まれつきある異常(唇裂・多指症など)、あざ(血管腫・母斑など)、骨折による顔のけがや赤く盛り上がった傷あとなどがある患者さんに対し、手術やレーザーなどで治療を行っています。

また、がんを切除したあとの再建(形や機能を作り直すこと)にも力を入れており、当院では乳房再建の件数が最も多くなっています。今年4月には『乳がん治療・乳房再建センター』も開設され、乳腺外科・こころの医療センター・緩和ケア部・麻酔科(ペインクリニック)・化学療法部とこれまで以上に密な連携を取りながら人工乳房(エキスパンダーやインプラント)や自家組織(広背筋皮弁と腹直筋皮弁)による再建を行っています。さらに、看護師などの外来スタッフが

術後リハビリやスキンケア、下着の選び方・使い方、リンパ浮腫の予防・治療などのQOL(生活の質)に関するフォローにも積極的に取り組んでおり、患者さんが気軽にお話できるような環境づくりに努めています。

治療によって可能な限り正常で美しい状態に回復させることで患者さんの気持ちが前向きになり、その後の生活がより有意義なものになるよう今後も尽力していきます。



乳房再建に関しては、看護師などの外来スタッフが下着の選び方や使い方といった手術以外のフォローにも力を入れています

分べん成育先端医療センター(分べん部門)

“安全なお産”を目指して



分べん成育先端医療センター
(分べん部門)
尾崎副センター長

分べん成育先端医療センターの分べん部門では、母体・胎児集中治療室(MFICU)の設置(平成26年6月)や総合周産期母子医療センターへの指定(平成27年4月)など、人員・設備などの強化・充実を進めながら通常の分娩やハイリスク妊娠の管理や分娩の診療にあたっております。関係診療科との連携も強く、小児科・小児外科・心臓血管外科・脳神経外科・泌尿器科などと協力して、胎児発育遅延や胎児異常と診断された赤ちゃんを妊娠中から出産後まで継続して治療しています。

胎児出生前診断では、超音波診断法・MRI・CTによる画像検査、母体血・羊水や絨毛細胞を用いた遺伝学的検査などで、早期かつ正確に診断できるようになっています。また、認定遺伝カウンセラーや臨床心理士と協力しながら、遺伝カウンセリングも行っています。

また、不妊症や不育症などに関する研究にも

力を入れており、平成26年には院内に不育・不妊センター、大学に不育症研究センターを設置しました(不育症研究センターは、文部科学省の特色のある共同研究拠点に認定)。不育症(習慣流産)、難治性不妊症や男性不妊症に対する体外受精、習慣流産の着床前診断、出生前診断など、生殖医療における最先端の情報を世界に向けて発信し、この分野を積極的にリードしています。



充実した設備とチーム医療でさまざまな分娩に対応しています

薬剤部

化学療法のスペシャリスト「外来がん治療認定薬剤師」

2人に1人はかかるといわれている「がん」。そのがんの治療法のひとつに化学療法がありますが、現在その治療の多くが外来でも受けられるようになってきていることをご存知でしょうか？

今回は、外来で化学療法を受けるがん患者さんへのサポートを担うスペシャリスト「外来がん治療認定薬剤師」をご紹介します。

外来がん治療認定薬剤師

外来がん治療認定薬剤師とは、外来で化学療法を受ける患者さんをサポートするための知識や技術を十分備えていると認められた者に対し、日本臨床腫瘍薬学会から与えられる資格です。平成25年に発足した制度で、今年4月に当院で初めて1名が認定を受けました。



薬剤師外来での取り組み

当院では「薬剤師外来」を設けており、外来がん治療認定薬剤師などの専門・認定薬剤師が中心となって患者さんのサポートを行っています。化学療法には注射と飲み薬の2種類がありますが、専門・認定薬剤師が持つ豊富な知識と経験を活かし、それぞれの治療法における説明や指導を行い、全ての患者さんが安全でよりよい治療が受けられるよう努めています。



薬剤師外来を担当する薬剤師の皆さん
左から竹本薬剤師(外来がん治療認定薬剤師)、川出特任准教授、黒田係長、近藤主査(以上3名はがん専門薬剤師)

今後も、より多くの患者さんが化学療法に満足できるよう取り組んでまいります。

市民公開講座・セミナーのご案内

| 市民公開講座 | |
|--------|---|
| 日時 | 平成28年11月20日(日) 10:30~12:10 |
| 場所 | 大ホール(病棟・中央診療棟3階) |
| 内容 | 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病、腸管ペーチェット病など)に関する医療講演会 |
| 定員 | 300名(先着順) |
| 担当 | 名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学 |

| 患者情報ライブラリーセミナー | |
|----------------|---|
| 日時 | 平成28年12月16日(金) 14:00~14:30 |
| 場所 | 患者情報ライブラリー(病棟・中央診療棟B1階) |
| 内容 | 退院後の療養生活の送り方~主治医とのよりよい関係~ 看護部外来師長 佐橋 朋代(がん看護専門看護師) |
| 定員 | 40名(先着順) |
| 担当 | 患者情報ライブラリー |

※次回(2月開催)については当院ホームページ上でお知らせします。

事前申込不要・費用無料ですので、どうぞお気軽にご参加ください。

ご寄附のお願い(さくら基金)

病院事務課

当院では「さくら基金」を設置し、寄附のご支援を願っています。

皆様から寄せられた寄附金は、診療研究、人材育成、医療環境の充実などに活用させていただきます。

当基金の趣旨をご理解いただくとともに、皆様のご支援をお願い申し上げます。

問い合わせ先

病院事務課病院経営係

TEL 052-858-7113(直通)

※インターネットもご利用いただけます。